

No. 1442

自衛隊観閲式

— 埼玉・朝霞 —

昭和57年度自衛隊観閲式が10月31日埼玉県朝霞の陸上自衛隊朝霞訓練場で行われた。伊藤防衛庁長官らと共に各部隊を巡閲する鈴木首相。参加部隊を前に訓示する鈴木首相。「国の防衛は長期的視点に立ち着実な努力を積み重ねていくことが肝要である」と述べた。観閲行進では防衛大学校を先頭に普通科部隊空挺部隊など約4,200名が行進。空からは対潜哨戒機（P3-C）抑撃戦闘機（F-15）など70機が観閲飛行。続いて車両部隊の行進。装甲車、ロケット砲、74式戦車など280両が参加した。高まる内外の防衛論議をよそに日本の防衛力は政府の「防衛計画の大綱」に基き着実に整備されつつあるようです。

中国残留孤児

めぐりあえる日はいつ.....

愛知県岡崎市に中国から一人の夫人がやってきた。38年前生き別れた父母を探すために。

中国残留日本人孤児、呂徳栄さん（41才）は、これまで厚生省が招待する訪日団に入れなかった。だが、祖国日本にいる肉親に一日も早く会いたいと、たった一人、自費で来日したのだ。初めは食事もノドを通らなかったが、肉親を探し出すためにも一生懸命食べなければ駄目だといわれ無理にも食べる。夜は知人の部屋に身を寄せ日本語の勉強に精出す。父親は戦前、中国遼寧省鞍山市の昭和製鋼所に勤めていたといわれるが、当時三才の呂さんにとって全く記憶はない。中国から日本に帰国した人たちに手あたり次第に電話をかけ、手がかりをつかもうとする毎日。岡崎から東京へ出掛け、厚生省も訪れた、が、厚生省もこれという情報はつかんでいない。涙ながらに呂さんは訴える。「お父さん、お母さん、どこにいるの、私のことを早く連れに来てほしい……。」呂さんの日本滞在（ビザ）は3ヶ月、来年になるとまた中国へ帰らなければならない。「一目だけでもいい、肉親に会いたい」という呂さんの悲痛な叫び声、めぐり会える日はいつのことだろうか。